



Keidanren Women's Executive Network

Leadership Mentor Program

女性にとっての新しい
リーダーシップのあり方
【平野副会長と秋山咲恵氏が対談】



経団連女性エグゼクティブ・ネットワーク

第22回リーダーシップ・メンター・プログラム

2021年6月9日 東京・大手町 経団連会館

目の前の現実 向き合う力が必要 (秋山氏)

変化の流れが激しい時代に重要なのは、内向きになったり、過去の成功体験に引きずられて思考停止したりせずに、目の前の現実として起きている小さな変化に真摯に向き合い続けることだ。そうすれば、大きな時代の流れから外れることはない。異質なものを受け入れることを楽しむマインドを持つためにもダイバーシティは重要。

“マジョリティ”として 変える覚悟 (秋山氏)

これまで私たち女性は、組織の中でマイノリティだった。マイノリティだから、気軽に言えたことや振舞いがあったが、これから本気で組織や今見えている景色を変えていこうと思ったら、自らが“マジョリティ”となって社会を変えていくという覚悟が必要だ。リーダーシップには色々な考え方やスタイルがあるべきだが、「品格」があるリーダーシップを期待したい。

“Exploration”と“Exploitation” の両方が大事 (平野副会長)

危機になってこそ真価が問われる。成長のポテンシャルをいかに早く見つけプラグイン出来るかが重要だ。不確実性の高い時代に、リーダーは、足元の状況対処だけに囚われず、次の活路を切り拓くための投資の視点も持ち併せるべき。これは“Exploration (知の探索)”と“Exploitation (知の深化)”の両方が大事という“両利きの経営”に相通じるものといえる。

ダイバーシティは “level playing field”であるべき (平野副会長)

成長やイノベーションを生み出す源泉は「多様性」であり、それを駆動する原動力がパーパスだ。アフーマティブアクションは、活躍の機会を意識的に創るという意味で捉えるべきであり、異質なものを率直に受け入れる“level playing field”が提供されるべきだ。

Mentor Profile

平野 信行氏

(一社)日本経済団体連合会
副会長
(株)三菱UFJ銀行特別顧問



秋山 咲恵氏

サキコーポレーションファウンダー



三菱UFJ銀行

